

オルガノン要約 § 165～§ 177

§ 165 SRPの合っていないもの、つまり一般的な症状に対して処方したレメディが良い結果を出す
と期待してはならない。

§ 166 現在、レメディは十分存在しているのでそのようなことは稀なことである。実際に正しくない
レメディを処方したとしても、より一層類似したレメディを選べば、その被害は軽減される。

§ 167 不完全にマッチするレメディを処方してしまった時、それが急性病の場合は作用を完遂さ
せてはならない。また、レメディが作用している内は患者を放っておいてはならない。変化した状態
を調べ、残った本来の症状と新たに発生した症状を結びつけた新しい症状像を見なければならな
い。

§ 168 その症状像に類似したレメディが見つければ、かなりの治癒が図れるだろう。
そしてそれを繰り返すことで健康に近づいて行く(ジグザグ法)。

§ 169 レメディの候補が二つある場合、優れた方を投与した後は、もう一つのレメディを無批判に
投与してはならない。新たな症状像に対してレメディを選び直すこと。
(注)この二つのレメディを同時に投与してはならないのは言うまでもない。

§ 170 上記の二番目のレメディのことは一旦忘れ、新たに症状を取り直すこと。

§ 171 ソーラマヤズムの病気には抗ソーラのレメディを順次投与する必要がある。それぞれのレメ
ディは、前のレメディの作用の完了後に、残った症状群に対してマッチしたレメディを投与する。

§ 172 症状の数が少なすぎると処方は困難である。この時は細心の注意を払え。これを克服する
ことで、この治療法での困難を解決出来るから。

§ 173 一、二種類の症状が際立っているだけの病気(多くは慢性病)を治療するのはさらに困難
である。これらは一面的な病気である。

§ 174 こうした病気の主症状には二つある。

A) 内的な症状(長年続く頭痛・下痢・胸焼けなど)

B) 外的な症状＝局所的な症状

§ 175 内的な症状が一面的にしか見えないのは医師の不注意であることが多い。

§ 176 しかし上記のような病気はまれに存在する。そこには強くて激しい症状が少数存在する。

§ 177 上記の病気にはそのわずかな強い症状に対して最善のレメディを選ぶ。